



平成25年8月14日

各 位

会 社 名 昭和ホールディングス株式会社
代表者名 代表執行役社長 重田 衛
(コード番号 5103 東証第二部)
問合せ先 執行役財務総務担当 庄司 友彦
(TEL. 04-7131-0181)

【特別利益】投資有価証券売却益計上予定の変更、
【特別利益】負ののれん発生益の計上及び、
【特別利益】持分変動利益の発生並びに、
平成26年3月期（連結）業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成25年5月15日付「業績予想と実績値との差異に関するお知らせ」のうち、「5. 特別利益計上時期の確定」におきまして、投資有価証券売却益の計上時期をご報告しておりましたが、当該投資有価証券売却益の会計処理の変更を行うこと及び、負ののれん発生益を計上することいたしましたのでお知らせいたします。

又、これらと足元の業績動向を勘案し、平成25年5月15日に公表いたしました平成26年3月期（平成25年4月1日～平成26年3月31日）の連結業績予想につきましても下記のとおり修正することといたしましたので併せてお知らせいたします。

記

1. 特別利益（投資有価証券売却益）の計上予定の変更

平成25年5月15日に公表いたしましたとおり、当社といたしましては当第1四半期の連結財務諸表において約10億5百万円の投資有価証券売却益を特別利益に計上する予定でしたが、決算を確定するに当たり、あらためて当該取引内容・形態を慎重に検証した結果、特別利益に計上するのではなく、会計処理として、含み益として処理することが適切であると判断いたしましたので、当該投資有価証券売却益の計上を行わないことといたしました。

なお、平成25年5月15日のIRにつきましては以下のURLをご確認ください。

http://www.showa-holdings.co.jp/ir/irfile/sh20130515_2.pdf

2. 特別利益（負ののれん発生益）の計上

上記1. 取引に絡み、純資産価格と比較して大幅に低い価格で有価証券を取得することとなりましたので、純資産価格より安く購入した金額につきましては、連結決算の手続き上、「負ののれん発生益」が生じることとなりました。当該処理に伴い、特別利益に258,607千円を計上することとなりました。

3. 特別利益（持分変動利益）の計上

当第1四半期の連結財務諸表上において、連結孫会社の少数株主のワラントの権利行使にともない、持分変動損益72,101百万円が発生することとなりました。

4. 平成26年3月期第2四半期累計期間連結業績予想の修正（平成25年4月1日～平成25年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	4,000百万円	700百万円	700百万円	500百万円	10.75円
今回修正予想(B)	4,350百万円	420百万円	500百万円	190百万円	4.08円
増減額(B-A)	350百万円	▲280百万円	▲200百万円	▲310百万円	—
増減率(%)	8.75%	▲40.00%	▲28.57%	▲62.00%	—
(ご参考) 前期第2四半期実績 (平成25年3月期第2四半期)	3,546百万円	350百万円	373百万円	▲18百万円	—円

5. 平成26年3月期通期連結業績予想の修正（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	8,300百万円	1,500百万円	1,500百万円	550百万円	11.82円
今回修正予想(B)	8,850百万円	920百万円	1,050百万円	230百万円	4.94円
増減額(B-A)	550百万円	▲580百万円	▲450百万円	▲320百万円	—
増減率(%)	6.63%	▲38.67%	▲30.00%	▲58.18%	—
(ご参考)前期実績 (平成25年3月期)	7,405百万円	758百万円	928百万円	101百万円	2.18円

6. 修正の理由

平成26年3月期第2四半期連結業績予想につきましては、売上高は、当第1四半期においてはゴム事業やコンテンツ事業など厳しい状況でありましたが、オートバイファイナンスを中心とするファイナンス事業がタイ国内で大幅な増収を達成することで、減収の穴を埋め、さらに連結売上見込みを引き上げる結果となりました。

当社グループといたしましては、タイ国内でも引き続き営業拡大が進んでいることや、新たにカンボジア王国への事業展開も開始しておりますので、この増収トレンドは今後も継続するものと考えております。

その結果平成26年3月期第2四半期連結売上高予想は、当初予想を350百万円増加させた4,350百万円に修正させていただきます。

営業利益につきましては、コンテンツ事業のカードゲームのロイヤリティー収入が低調に推移したことや、ゴム事業におけるライニング部門の売上予想未達に伴う減益と変動比率の上昇により当初予定していた利益を獲得するにいたりませんでした。また、売上が非常に好調なファイナンス事業につきましては、ASEAN全域での事業展開を目指し、一部先行投資的な費用が発生しております。これらの費用につきましては、これまで以上の事業成長をサポートする為のものであり、必要かつ有益な費用拡大であると考えております。

この結果平成26年3月期第2四半期連結営業利益予想は、当初予想を280百万円減少させた420百万円に修正させていただきます。

経常利益につきましては、営業利益と同様の減益理由もありましたが、ホテル事業、及び、食品事業などの持分法適用子会社の事業が好調に推移することで持分法による投資利益が予想以上に発生したこと、及び、訴訟費用等の営業外費用の削減が進んだことより、営業利益の減少額を一部補う形となりました。

この結果平成26年3月期第2四半期連結経常利益は、当初予想を200百万円減少させ、500百万円に修正させていただきます。

当期純利益につきましては、営業利益、経常利益の減益理由に加え、上記1. 2. にそれぞれ記載しました通り、当社連結孫会社で投資有価証券売却益（約10億500万円）の計上取りやめたこと、及び、負ののれん発生益（258,607千円）の計上の影響により、平成26年3月期第2四半期連結当初予想を310百万円減少させた190百万円に修正させていただきます。

なお、投資有価証券の売却益の計上の取りやめによる影響金額（約10億500万円）等が、直接当期利益に影響しないのは、当社の持株比率が50.6%の連結孫会社でのイベントであった為、少数株主持分損益の影響により100%が当社の当期純利益の負担にならないことによるものです。

また、平成26年3月期通期連結業績予想につきましては、上記、平成26年3月期第2四半期連結業績予想の修正理由を勘案し、売上高8,850百万円（当初予想比+6.63%の増加）、営業利益920百万円（当初予想比38.67%の減少）、経常利益1,050百万円（当初予想比30.00%の減少）、当期純利益230百万円（当初予想比58.18%の減少）に修正させていただきます。

注釈

*負ののれん・・・株式を純資産よりも高い価格で取得すると、純資産と買取価格の差が「のれん」として無形固定資産として計上され、数年に渡り定期的に償却を行うこととなります。

これに対してまれに株式を純資産よりも低い価格で取得した場合に計上されるのが「負ののれん」と言われ、取得時に一括にて、特別利益を計上します。

この度、当社としましては特別利益を計上せず、負ののれん発生特別利益を計上することになりました。当該変更のデメリットならびにメリットは以下の通りになります。

メリット・・・今後、数年間に起こるのれんの償却による利益押し下げがなくなる

*例えば、約8億円がのれんに計上されたとし、7年間で償却するとすると

年間1.1億円の経費増となりますが、これが発生いたしません。

デメリット・・・今期の特別利益から約8億円相当を減少させる

以上